FCL Components SERVIS KVM Solution IP-KVM FX-7101 シリーズ

個別マニュアル

「Active Directory 設定マニュアル」

05版

本書について

本書は、IP-KVM FX-7101 シリーズ (以降、本製品と略します) をご利用いただくにあたっての使用方法について説明しております。本書の内容をご理解の上ご使用願います。 また、本製品の詳細につきましては、IP-KVM FX-7101 シリーズ オペレーティングマニュアルを合わせてご参照ください。

本書には、本製品を安全に正しくお使いいただくために守っていただきたい重要な情報が記載されています。

本製品をお使いになる前に本書をよくお読みになり、本製品を正しくお使いください。また、本書は本製品の使用中にいつでも参照できるよう、大切に保管してください。

弊社は、使用者および周囲の方々の身体や財産に被害を及ぼすことなく安全に使っていただくために、細心の注意を払っております。本製品をご使用になる際は、本書の説明に従ってください。

本製品および本書の内容については、改良のために予告なく変更することがあります。本製品および本書の内容について、不明な点やお気づきの点がございましたら、弊社保守サポート係までご連絡願います。

商標について

本書に記載されているその他の会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。 なお、本文中では ® および ™ マークは省略しています。

本書は、FCLコンポーネント株式会社の著作物です。

本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。

Copyright 2024 FCL COMPONENTS LIMITED

目次

1	はじめに		1
2	構築する	る環境	3
3	構築手	順	6
	3.1 AD) サーバーにユーザーを登録	7
	3.2 AD) 登録ユーザーに権限を設定	12
	3.3 本	製品に AD サーバー情報を設定	14
	3.3.1	本製品の WebUI 設定	14
	3.3.2	AD 認証の確認	20
	3.4 本語	製品ごとにログイン可能なユーザーを設定	22
	3.4.1	組織単位(OU) IP-KVM1 の作成とユーザー登録	22
	3.4.2	IP-KVM1 の WebUI に組織単位(OU)を設定	26
	3.4.3	組織単位(OU) IP-KVM1 登録後の AD 認証の確認	28
	3.4.4	組織単位(OU) IP-KVM2 の作成とユーザー登録	30
	3.4.5	IP-KVM2 の WebUI に組織単位(OU)を設定	31
	3.4.6	組織単位(OU) IP-KVM2 登録後の AD 認証の確認	31
	3.5 本語	製品ごとにユーザー権限を設定	32
	3.5.1	組織単位(OU) IP-KVM1 にユーザー権限を設定	32
	3.5.2	IP-KVM1 の WebUI にユーザー権限参照先を設定	35
	3.5.3	組織単位(OU) IP-KVM1 ごとの AD 認証の確認	36

1 はじめに

本書では、Active Directory サーバーを使い本製品に有効なアカウントとアクセス権の設定および 運用方法を説明します。

本書を読むことによって、本製品の下記サービスへのログイン認証に Active Directory 認証を使用できるようになります。なお、一部のサービスは日本語名を含むユーザーの認証はできません。この場合はローカル認証を使用するか、Active Directory サーバー上の日本語を含まないユーザー名でログインしてください。

サービス名	日本語を含むユーザー名のログイン
シリアルコンソール	×
Telnet	×
SSH	0
WebUI(http/https)	0
リモート操作	0
SFTP	0

本書を利用するにあたり以下の技術情報について知識が必要となります。

- ・ Active Directory の基礎知識
- ・ Windows ネットワークに関する基本的な知識

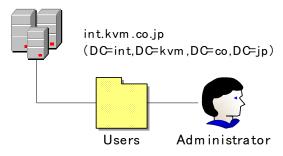
本書では以下の略称を使用します。

正式名称	略称
Active Directory	AD
Domain Component	DC
Common Name	CN
Organization Unit name	OU
Distinguished Name	DN

本書の AD サーバーは Windows Server 2016 を使用して以下の環境が構築されているもの とします。

項目	内容 () は DN 表記	
ルートドメイン名	int.kvm.co.jp	
	(DC=int,DC=kvm,DC=co,DC=jp)	
アカウント情報の管	ルートドメイン直下の Users コンテナ	
理コンテナ	(CN=Users,DC=int,DC=kvm,DC=co,DC=jp)	
管理権限所有アカ	Administrator	
ウント	(CN=Administrator,CN=Users,DC=int,DC=kvm,DC=co,DC=jp)	

下記図はADサーバーのドメインツリーを示します。ルートドメイン直下に Users コンテナが存在し、 Users コンテナに Administrator が登録されています。



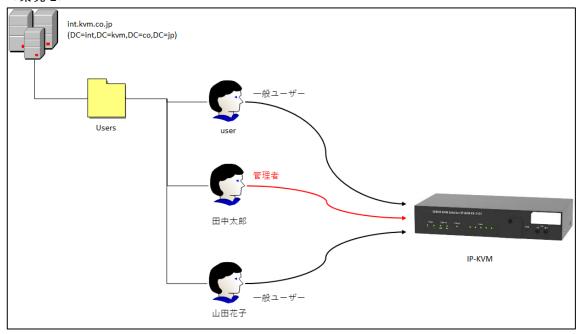
2 構築する環境

本書では3種類の環境を順に構築します。

まず AD サーバーに登録したユーザーが本製品にログイン可能かつ、ユーザーごとに権限を指定可能な環境です。

下図は AD サーバーの Users コンテナに登録した 3 人のユーザーが本製品にログイン可能であり、 "田中太郎"のみ管理者権限を有することを示しています。本製品へのログイン時のユーザー権限は、 Users コンテナ内の各ユーザーのプロパティで設定します。

<環境 1>

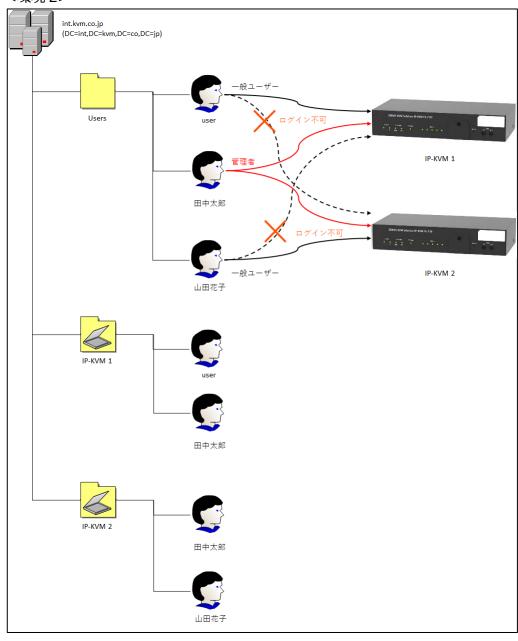


次に AD サーバーと同一ネットワーク内に複数の本製品が存在する環境において、装置ごとにログイン可能なユーザーを指定する環境を作成します。

下図は 2 つの本製品(IP-KVM1 と IP-KVM2)に対して IP-KVM1 には"user"と "田中太郎" がログイン可能、IP-KVM2 には "田中太郎"と "山田花子"がログイン可能である環境を示しています。

本環境は、AD サーバーに装置ごとの組織単位(OU)を作成し、各 OU にそれぞれがログイン可能なユーザーを登録することで構築します。

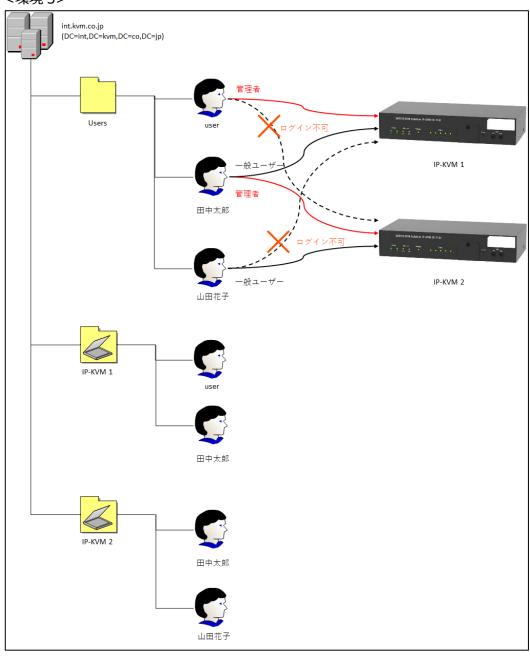
<環境 2>



環境 2 ではログイン先に関わらず、ユーザーごとに権限が固定となっていました。これに対して本製品ごとにログイン時のユーザー権限を設定することも可能です。

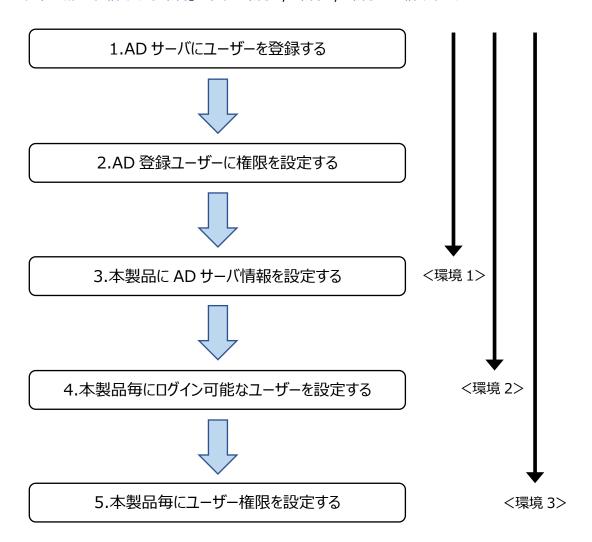
下図は "user"は IP-KVM1 に管理者としてのみログインできまた"田中太郎"が IP-KVM1 にログインした場合は一般ユーザー、IP-KVM2 にログインした場合は管理者となる環境を示しています。本環境は、環境 2 で OU に登録したユーザーのプロパティを設定することで構築します。

<環境3>



3 構築手順

以下の流れで「構築する環境」に示した環境 1, 環境 2, 環境 3 を構築します。



3.1 AD サーバーにユーザーを登録

以下の手順に従い、AD サーバー上にユーザーアカウントを作成します。 本書では次の3人のユーザーを作成します。

項目	値
フルネーム	user
ユーザーログオン名	user
DN 表記	CN=user,CN=Users,DC=int,DC=kvm,DC=co,DC=jp

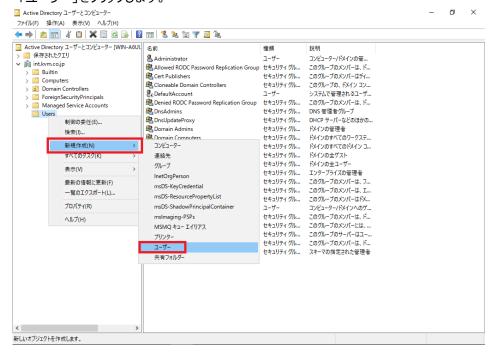
項目	値
フルネーム	田中太郎
ユーザーログオン名	田中太郎
DN 表記	CN=田中太郎,CN=Users,DC=int,DC=kvm,DC=co,DC=jp

項目	値
フルネーム	山田花子
ユーザーログオン名	山田花子
DN 表記	CN=山田花子,CN=Users,DC=int,DC=kvm,DC=co,DC=jp

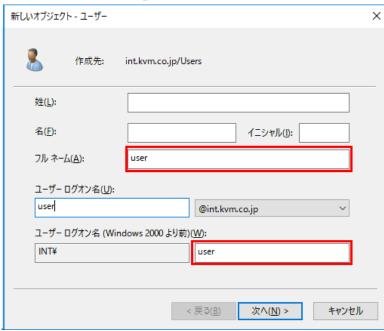
① 「サーバーマネージャー」を起動し、「ツール」-「Active Directory ユーザーとコンピューター」をクリックします。



② 「Active Directory ユーザーとコンピューター」が表示されます。「Active Directory ユーザーとコンピューター」-「int.kvm.co.jp」-「Users」を右クリックした後に、「新規作成」-「ユーザー」をクリックします。

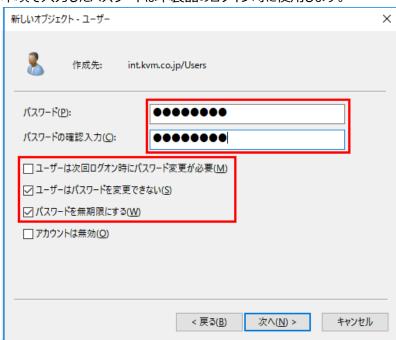


- ③ 「新しいオブジェクト ユーザー」が表示されます。「フルネーム」と「ユーザーログオン名」 にそれぞれ "user"と入力し [次へ] をクリックします。
 - ユーザーログオン名は sAMAccountName に相当します。本製品では「Windows2000 より前」の値でログインしますのでご注意ください。

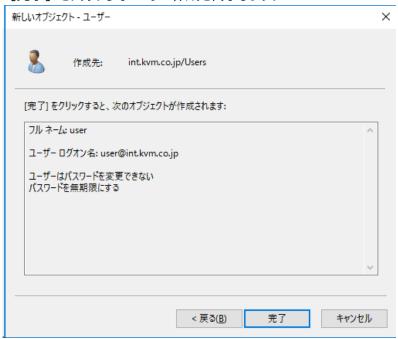


④ 「パスワード」と「パスワードの確認入力」に "user"が使用するパスワードを入力します。 「ユーザーは次回ログイン時にパスワード変更が必要」のチェックを外し、「ユーザーはパス ワードを変更できない」、「パスワードを無期限にする」にチェックを入れて [次へ] をクリックします。

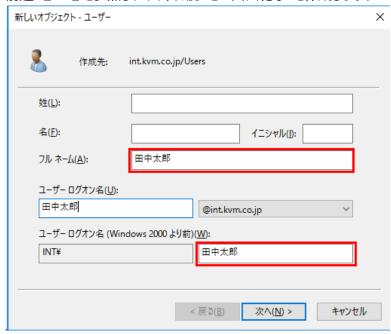
本項で入力したパスワードは本製品のログイン時に使用します。

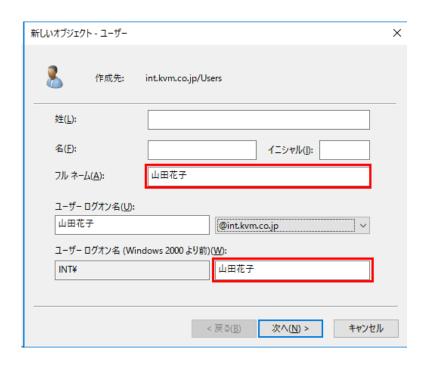


⑤ [完了]をクリックしてユーザー作成を終了します。

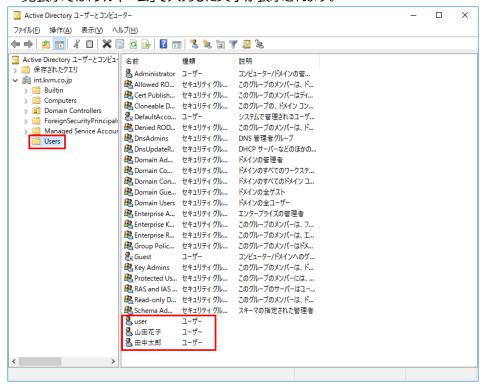


⑥ 前述 ②~⑤を参照し、"田中太郎"と "山田花子"を作成します。





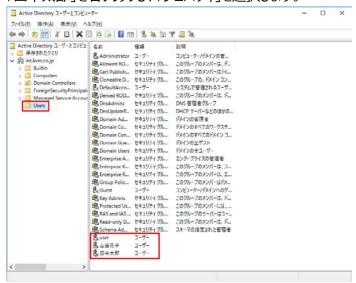
⑦「Active Directory ユーザーとコンピューター」の画面で、「int.kvm.co.jp」-「Users」以下に "user"、 "田中太郎"、"山田花子"、が表示されることを確認します。 なお、 一覧表示では「フルネーム」で入力した文字が表示されます。



3.2 AD 登録ユーザーに権限を設定

以下の手順に従い、AD に登録したユーザーに本製品ログイン時の権限を設定します。 本項では"田中太郎"のプロパティを変更し、本製品の管理者として設定します。

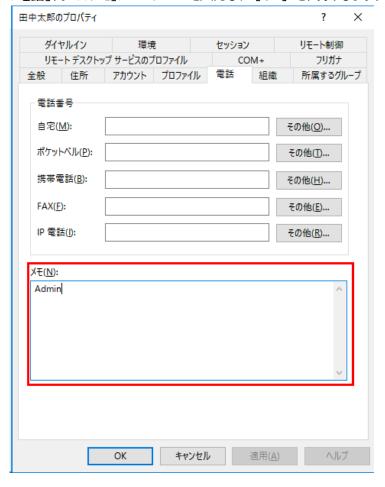
① 「Active Directory ユーザーとコンピューター」の画面で「int.kvm.co.jp」-「Users」- 「田中太郎」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。



② 「田中太郎のプロパティ」が表示されますので、「電話」タブを選択してください。



③ 「電話」タブの「メモ」に "Admin"と入力し、 [OK] をクリックします。



3.3 本製品にADサーバー情報を設定

本製品の WebUI にログインし、AD サーバーの情報を設定します。 その後、AD に登録したユーザーで本装置にログインできることを確認します。

3.3.1 本製品の WebUI 設定

以下の手順に従い、本製品に AD サーバーの情報を設定します。

① WebUI-「認証の設定」-「LDAP 認証の設定」

LDAP認証の設定		
認証サーバ(IPアドレス)	192.168.0.113	
認証サーバ(ポート番号)	389 (範囲:1~65535)	
アクセスユーザーDN	CN=Administrator,CN=Users,DI	
アクセスユーザーバスワード	•••••	
ユーザー権限設定	●一括 ○個別	
検索DN	CN=Users	
ログイン属性	sAMAccountName	
装置DN		
装置ログイン属性コンテナ	displayName	
管理属性コンテナ	info	
管理者属性文字	Admin	
タイムアウト[秒]	10 (範囲:1~300)	
反映		

② 「認証サーバ(IP アドレス)」に使用する AD サーバーの IP アドレス、「認証サーバ(ポート番号)」に使用する AD サーバーのポート番号を入力します。

LDAP認証の設定		
認証サーバ(IPアドレス)	192.168.0.113	
認証サーバ(ポート番号)	389 (範囲:1~65535)	
アクセスユーザーDN	CN=Administrator,CN=Users,DI	
アクセスユーザーバスワード	•••••	
ユーザー権限設定	●一括 ○個別	
検索DN	CN=Users	
ログイン属性	sAMAccountName	
装置DN		
装置ログイン属性コンテナ	displayName	
管理属性コンテナ	info	
管理者属性文字	Admin	
タイムアウト[秒]	10 (範囲:1~300)	
反映		

③ 「アクセスユーザーDN」に AD サーバーの管理者 DN を入力します。本書では "Administrator"が AD サーバーの管理者となるため管理者 DN は以下となります。

CN=Administrator,CN=Users,DC=int,DC=kvm,DC=co,DC=jp「アクセスユーザーDN」に上記を入力します。



④「アクセスユーザーパスワード」に「アクセスユーザーDN」で指定した管理者アカウントのパスワードを入力します。



- ⑤ 「検索 DN」にログインに使用するユーザーが格納されたオブジェクトの DN を 入力し、「ログイン属性」には "sAMAccountName" を入力します。検索 DN は下記になります。
 - ・CN=Users,DC=int,DC=kvm,DC=co,DC=jp 「sAMAccountName」は「ユーザーログオン名」に相当します。



⑥ 装置 DN は未入力状態にします。値が入力されている場合は削除してください。

LDAP認証の設定		
認証サーバ(IPアドレス)	192.168.0.113	
認証サーバ(ポート番号)	389 (範囲:1~65535)	
アクセスユーザーDN	CN=Administrator,CN=Users,DI	
アクセスユーザーバスワード	•••••	
ユーザー権限設定	●一括 ○個別	
検索DN	CN=Users,DC=int,DC=kvm,DC=	
ログイン属性	sAMAccountName	
装置DN		
装置ログイン属性コンテナ	displayName	
管理属性コンテナ	info	
管理者属性文字	Admin	
タイムアウト[秒]	10 (範囲:1~300)	
	反映	

⑦ 「管理属性コンテナ」に "info"、「管理者属性文字」に "Admin"を入力してください。

「info」はユーザープロパティの「メモ」に相当します。本装置はログイン認証に成功したユーザーのプロパティより「メモ」の内容を読み取ります。読み取った「メモ」の内容に「管理者属性文字」に入力した文字が含まれている場合に本装置の管理者としてログインし、それ以外の場合には一般ユーザーとしてログインします。

LDAP認証の設定 192.168.0.113 認証サーバ(IPアドレス) 認証サーバ(ポート番号) 389 (範囲:1~65535) アクセスユーザーDN CN=Administrator,CN=Users,Di アクセスユーザーバスワード ••••• ユーザー権限設定 ●一括 ○個別 検索DN CN=Users,DC=int,DC=kvm,DC= ログイン属性 sAMAccountName 装置DN 装置ログイン属性コンテナ displayName 管理属性コンテナ info 管理者属性文字 Admin タイムアウト[秒] 10 (範囲:1~300) 反映

⑧ 「タイムアウト(秒)」に適切な値を入力してください。
本装置は AD サーバーとの認証処理が「タイムアウト(秒)」を経過しても完了していない場合、認証失敗と判断して AD サーバーとの通信を終了します。

LDAP認証の設定 認証サーバ(IPアドレス) 192.168.0.113 認証サーバ(ポート番号) 389 (範囲:1~65535) アクセスユーザーDN CN=Administrator,CN=Users,D アクセスユーザーバスワード ••••• ユーザー権限設定 ●一括 ○個別 検索DN CN=Users,DC=int,DC=kvm,DC= ログイン属性 sAMAccountName 装置DN 装置ログイン属性コンテナ displayName 管理属性コンテナ info 管理者属性文字 Admin タイムアウト[秒] 10 (範囲:1~300) 反映

- ⑨ [反映]をクリックしてください。
 - ① ~ ⑧の設定内容を有効にします。

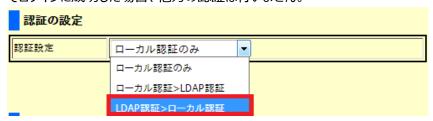
LDAP認証の設定



⑩ 「認証の設定」を「ローカル認証>LDAP 認証」または「LDAP 認証>ローカル 認証」に設定してください。

ローカル認証は本装置に記憶しているユーザー情報で認証を行い、AD サーバーにアクセスしません。

LDAP 認証は AD サーバーにアクセスして認証を行います。本パラメーターはローカル認証と LDAP 認証の優先順位を決めます。先に指定した認証方法でログインに成功した場合、他方の認証は行いません。



- ① [反映]をクリックしてください。
 - ⑩ の設定内容を有効にします。



3.3.2 AD 認証の確認

以下の手順に従い、本製品の認証処理が AD 認証になっていることを確認します。

ここまでの設定で下記の組み合わせで AD 認証に成功します。

ユーザー名	□グイン後の権限
user	一般ユーザー
田中太郎	管理者
山田花子	一般ユーザー

① WebUI -「認証の設定」-「認証の確認」を表示します。

認証の確認		
ログイン名		
バスワード		
実行		

② 「ログイン名」に "user"、「パスワード」に「user」のパスワードを入力して、 [実行] をクリックしてください。

認証の確認	
ログイン名	user
パスワード	•••••
	実行

③ AD 認証の結果を表示します。権限が一般ユーザーの場合は「認証に成功 しました。」と表示されます。

認証の確認		
ログイン名	user	
パスワード		
	実行 認証に成功しました。	

④ 「ログイン名」に "田中太郎"、「パスワード」に 「田中太郎」のパスワードを入 カして、 [実行] をクリックしてください。

認証の確認	
ログイン名	田中太郎
パスワード	•••••
実行	

⑤ AD 認証の結果を表示します。権限が管理者の場合は「管理者認証に成功しました。」と表示されます。

認証の確認	
ログイン名	田中太郎
パスワード	
	実行 実行 管理者認証に成功しました。

⑥ 「ログイン名」に "山田花子"、「パスワード」に「山田花子」のパスワードを 入力して、[実行] をクリックしてください。

認証の確認	
ログイン名	山田花子
パスワード	•••••
	実行

⑦ AD 認証の結果を表示します。権限が一般ユーザーの場合は「認証に成功 しました。」と表示されます。



3.4 本製品ごとにログイン可能なユーザーを設定

AD サーバー上に本製品ごとの組織単位(OU)を作成し、それぞれにログイン可能なユーザーを登録します。その後、本製品の WebUI で対象となる OU を設定し認証を確認します。

本項では、IP-KVM1 と IP-KVM2 のそれぞれにログイン可能ユーザーを登録します。

3.4.1 組織単位(OU) IP-KVM1 の作成とユーザー登録

以下の手順に従い、AD サーバー上に IP-KVM1 の OU を作成し、作成した OU 以下にログイン可能なユーザーを登録します。ログイン可能なユーザーは、"user"と "田中太郎"とします。

以下のオブジェクトを作成します。

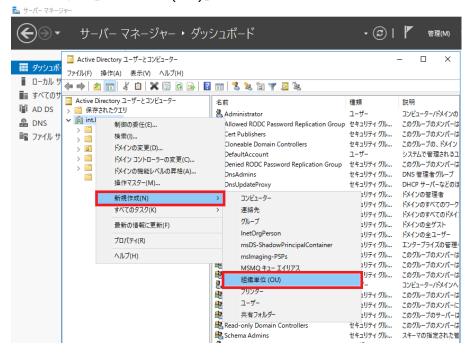
項目	値	
OU 名	IP-KVM1	
DN 表記	OU=IP-KVM1,DC=int,DC=kvm,DC=co,DC=jp	

項目	値	
フルネーム	user	
ユーザーログオン名	user1	
DN 表記	CN=user,OU=IP-KVM1,DC=int,DC=kvm,DC=co,DC=jp	

項目	値	
フルネーム	田中太郎	
ユーザーログオン名	田中太郎 1	
DN 表記	CN=田中太郎,OU=IP-KVM1,DC=int,DC=kvm,DC=co,DC=jp	

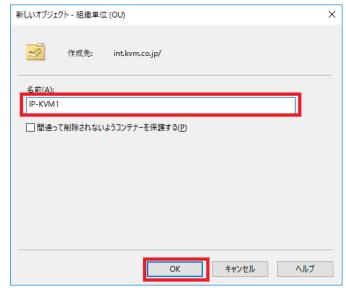
● 重要

本製品では「フルネーム」や「ユーザーログオン名」に日本語を含めることを 許容しますが、「OU 名」には含められません。 ① 「Active Directory ユーザーとコンピューター」-「int.kvm.co.jp」を右クリックし「新規作成」-「組織単位(OU)」をクリックします。

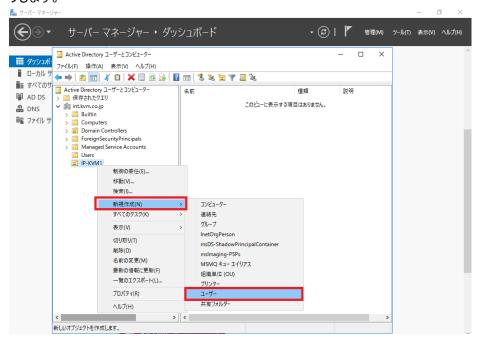


② 「新しいオブジェクト - 組織単位(OU)」が表示されます。「名前」に "IP-KVM1" と入力し、「間違って削除されないようにコンテナーを保護する」のチェックを外し、「OK」をクリックします。

本書では、OU: IP-KVM1 を削除できるように「間違って削除されないようにコンテナーを保護する」のチェックを外しています。保護する場合はチェックを入れてください。



③ 作成した「IP-KVM1」の OU を右クリックし、「新規作成」-「ユーザー」をクリックします。

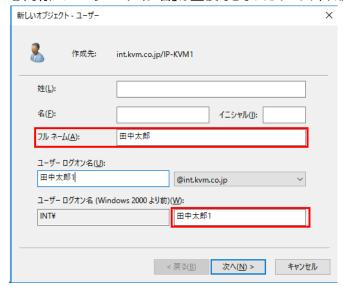


④ 以下のユーザーオブジェクトを作成します。「フルネーム」に "user"と入力してください。「フルネーム」は displayName に相当します。
 本装置では本オブジェクトの「ユーザーログオン名」と「パスワード」は使用しないので任意の文字列を指定してください。ただし、「ユーザーログオン名」は AD



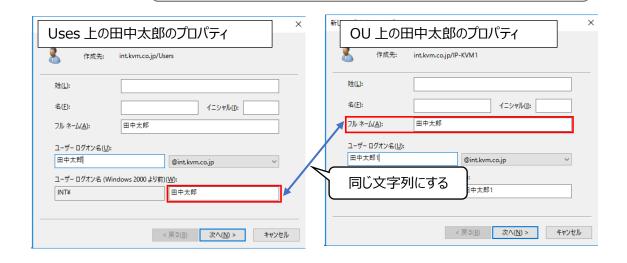
⑤ 以下のユーザーオブジェクトを作成します。「フルネーム」に "田中太郎"と入 力してください。





會重要

「Users」上の「ユーザーログオン名」と「OU」上の「フルネーム」は同じ 文字列としてください。2つの値が異なる場合認証に失敗します。



3.4.2 IP-KVM1 の WebUI に組織単位(OU)を設定

IP-KVM1 の WebUI にログインし、以下の手順に従って「LDAP 認証の設定」 に追加の設定を行います。

① IP-KVM1のWebUI - 「認証の設定」-「LDAP認証の設定」を開いてください。

LDAP認証の設定		
認証サーバ(IPアドレス)	192.168.0.113	
認証サーバ(ポート番号)	389 (範囲:1~65535)	
アクセスユーザーDN	CN=Administrator,CN=Users,DI	
アクセスユーザーパスワード	•••••	
ユーザー権限設定	●一括 ○個別	
検索DN	CN=Users,DC=int,DC=kvm,DC=	
ログイン属性	sAMAccountName	
装置DN		
装置ログイン属性コンテナ	displayName	
管理属性コンテナ	info	
管理者属性文字	Admin	
タイムアウト[秒]	10 (範囲:1~300)	
反映		

②「ユーザー権限設定」を「一括」にチェックを入れてください。

LDAP認証の設定

認証サーバ(IPアドレス)	192.168.0.113
認証サーバ(ポート番号)	389 (範囲:1~65535)
アクセスユーザーDN	CN=Administrator,CN=Users,DI
アクセスユーザーバスワード	••••
ユーザー権限設定	●一括 ○ 個別
検索DN	CN=Users,DC=int,DC=kvm,DC=
ログイン属性	sAMAccountName
装置DN	OU=IP-KVM1,DC=int,DC=kvm,I
装置ログイン属性コンテナ	displayName
管理属性コンテナ	info
管理者属性文字	Admin
タイムアウト[秒]	10 (範囲:1~300)
	反映

③ 「装置 DN」に対象となる OU の DN、「装置ログイン属性コンテナ」に "displayName"を入力してください。

「装置 DN」は下記になります。

・OU=IP-KVM1,DC=int,DC=kvm,DC=co,DC=jp「displayName」は「フルネーム」に相当します。



- ④ [反映] をクリックしてください。
 - ②、③の設定内容を有効にします。

LDAP認証の設定 認証サーバ(IPアドレス) 192.168.0.113 認証サーバ(ボート番号) 389 (範囲:1~65535) アクセスユーザーDN CN=Administrator,CN=Users,DI アクセスユーザーバスワード •••• ユーザー権限設定 ●一括 ○個別 検索DN CN=Users,DC=int,DC=kvm,DC= ログイン属性 sAMAccountName 装置DN OU=IP-KVM1,DC=int,DC=kvm,[装置ログイン属性コンテナ displayName 管理属性コンテナ info 管理者属性文字 Admin タイムアウト[秒] (範囲:1~300) 反映

3.4.3 組織単位(OU) IP-KVM1 登録後の AD 認証の確認

OU IP-KVM1 の登録前と登録後とで、ログイン認証の結果が下記のように変わります。

<登録前>

ユーザー名	□グイン後の権限
user	一般ユーザー
田中太郎	管理者
山田花子	一般ユーザー

<登録後>

ユーザー名	□グイン後の権限
user	一般ユーザー
田中太郎	管理者
山田花子	ログイン不可

以下の手順で IP-KVM1 の認証処理が OU 登録後に変化していることを確認できます。

① WebUI - 「認証の設定」-「認証の確認」を表示します。

認証の確認	
ログイン名	
パスワード	
	実行

② 「ログイン名」に "user"、「パスワード」に「user」のパスワードを入力して [実行] をクリックします。

認証の確認	
ログイン名	user
パスワード	•••••
実行	

③ AD 認証の結果を表示します。

一般ユーザーでログイン認証に成功した場合、「認証に成功しました。」と表示されます。

認証の確認	
ログイン名	user
パスワード	
	実行。 認証に成功しました。

④ 「ログイン名」に "田中太郎"、「パスワード」に「田中太郎」のパスワードを入 カして [実行] をクリックします。

認証の確認	
ログイン名	田中太郎
パスワード	•••••
実行	

⑤ AD 認証の結果を表示します。

管理者でログイン認証に成功した場合、「管理者認証に成功しました。」と表示されます。

認証の確認	
ログイン名	田中太郎
パスワード	
	実行 管理者認証に成功しました。

⑥ 「ログイン名」に "山田花子"、「パスワード」に「山田花子」のパスワードを入 力して [実行] をクリックします。



⑦ AD 認証の結果を表示します。ログインに失敗した場合、「ログイン名が存在しません。」と表示されます。

認証の確認		
ログイン名	山田花子	
パスワード		
	実行 ログイン名が存在しませ	ho

3.4.4 組織単位(OU) IP-KVM2 の作成とユーザー登録

ADサーバー上に IP-KVM2 の OUを作成し、作成した OU いかにログイン可能なユーザーを登録します。ログイン可能なユーザーは "田中太郎"と "山田花子" とします。

「組織単位(OU) IP-KVM1 の作成とユーザー登録」の手順を参考にして、以下のオブジェクトを作成します。

項目	値
OU名	IP-KVM2
DN 表記	OU=IP-KVM2,DC=int,DC=kvm,DC=co,DC=jp

項目	値
フルネーム	田中太郎
ユーザーログオン名	田中太郎 2
DN 表記	CN=田中太郎,OU=IP-KVM2,DC=int,DC=kvm,DC=co,DC=jp

項目	値	
フルネーム	山田花子	
ユーザーログオン名	山田花子 1	
DN 表記	CN=山田花子,OU=IP-KVM2,DC=int,DC=kvm,DC=co,DC=jp	

優 重要

本製品では「フルネーム」や「ユーザーログオン名」に日本語を含めることを 許容しますが、「OU 名」には含められません。

3.4.5 IP-KVM2 の WebUI に組織単位(OU)を設定

IP-KVM2 の WebUI にログインし、「IP-KVM1 の WebUI に組織単位 (OU)を設定」の手順を参考に「LDAP 認証の設定」に追加の設定を行います。 IP-KVM2 の「装置 DN」は以下となります。

•OU=IP-KVM2,DC=int,DC=kvm,DC=co,DC=jp

3.4.6 組織単位(OU) IP-KVM2 登録後の AD 認証の確認

OU IP-KVM2 の登録前と登録後とで、ログイン認証の結果が下記のように変わります。

<登録前>

ユーザー名	□グイン後の権限
user	一般ユーザー
田中太郎	管理者
山田花子	一般ユーザー

<登録後>

ユーザー名	ログイン後の権限
user	ログイン不可
田中太郎	管理者
山田花子	一般ユーザー

「組織単位(OU) IP-KVM1 登録後の AD 認証の確認」の手順を参考に、IP-KVM2 の認証処理が OU 登録後に変化していることを確認します。

3.5 本製品ごとにユーザー権限を設定

ユーザー権限の参照先を OU ごとに変更することで、装置ごとにログイン時のユーザー権限を 設定します。

装置ごとの OU のユーザーオブジェクトにユーザー権限を設定します。その後、本製品の WebUI にてユーザー権限の参照先を OU に設定します。

「組織単位(OU) IP-KVM1 登録後の AD 認証の確認」より、IP-KVM1 のログイン時のユーザー権限は下記のようになっています。

ユーザー名	ログイン後の権限
user	一般ユーザー
田中太郎	管理者
山田花子	ログイン不可

本項を読み進めることで、下記のように設定できます。

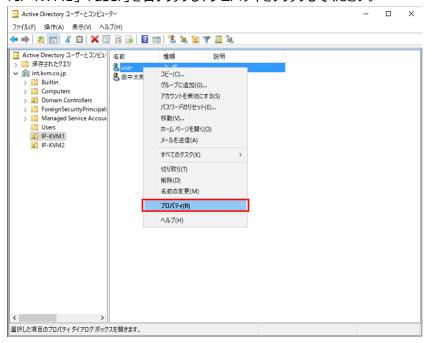
ユーザー名	ログイン後の権限
user	管理者
田中太郎	一般ユーザー
山田花子	ログイン不可

IP-KVM2 についても変更手順は同じです。

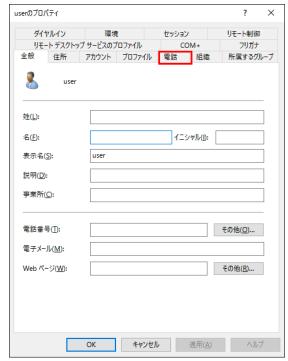
3.5.1 組織単位(OU) IP-KVM1 にユーザー権限を設定

OU IP-KVM1 の「user」プロパティを変更し、IP-KVM1 にログイン時に「user」を本製品の管理者としてログインできるようにします。

また、「田中太郎」は OU IP-KVM1 上でのプロパティを変更しないので、一般 ユーザーとしてログインします。 ① 「Active Directory ユーザーとコンピューター」の画面で「int.kvm.co.jp」-「IP-KVM1」-「user」を右クリックし、プロパティをクリックしてください。



② 「user のプロパティ」が表示されますので、 [電話] タブをクリックしてください。



③ 「電話」-「メモ」に "Admin"を入力し、[OK] をクリックします。



3.5.2 IP-KVM1 の WebUI にユーザー権限参照先を設定 本製品 IP-KVM1 の WebUI にログインして、ユーザー権限の参照先を OU IP-KVM1 に設定します。

① IP-KVM1 の WebUI - 「認証の設定」-「LDAP 認証の設定」を表示します。

LDAP認証の設定	
認証サーバ(IPアドレス)	192.168.0.113
認証サーバ(ポート番号)	389 (範囲:1~65535)
アクセスユーザーDN	CN=Administrator,CN=Users,DI
アクセスユーザーバスワード	••••
ユーザー権限設定	●一括 ○個別
検索DN	CN=Users,DC=int,DC=kvm,DC=
ログイン属性	sAMAccountName
装置DN	OU=IP-KVM1,DC=int,DC=kvm,[
装置ログイン属性コンテナ	displayName
管理属性コンテナ	info
管理者属性文字	Admin
タイムアウト[秒]	10 (範囲:1~300)
	反映

②「ユーザー権限設定」を「個別」にチェックを入れます。

LDAP認証の設定 認証サーバ(IPアドレス) 192.168.0.113 認証サーバ(ポート番号) 389 (範囲:1~65535) アクセスユーザーDN CN=Administrator,CN=Users,DI アクセスユーザーバスワード •••• ユーザー権限設定 ○一括 ● 個別 検索DN CN=Users,DC=int,DC=kvm,DC= ログイン属性 sAMAccountName 装置DN OU=IP-KVM1,DC=int,DC=kvm,[装置ログイン属性コンテナ displayName 管理属性コンテナ 管理者属性文字 Admin 10 (範囲:1~300) タイムアウト[秒] 反映

重要

「一括」を指定するとユーザー権限の参照先は「検索 DN」で指定されたパスのユーザープロパティとなります。

「個別」を指定するとユーザー権限の参照先は「装置 DN」で指定されたパスのユーザープロパティとなります。

③ [反映]をクリックして、変更内容を有効にします。



3.5.3 組織単位(OU) IP-KVM1 ごとの AD 認証の確認

以下の手順で IP-KVM1 の認証処理が変化していることを確認確認できます。

① WebUI - 「認証の設定」 - 「認証の確認」を表示する。



② 「ログイン名」に "user"、「パスワード」に「user」のパスワードを入力して [実行] をクリックします。

認証の確認	
ログイン名	user
パスワード	•••••
実行	

③ AD 認証の結果を表示します。

管理者でログイン認証に成功した場合、「管理者認証に成功しました。」と表示されます。

認証の確認	
ログイン名 パスワード	user
実行 管理者認証に成功しました。	

④ 「ログイン名」に "田中太郎"、「パスワード」に「田中太郎」のパスワードを入 力して [実行] をクリックします。



⑤ AD 認証の結果を表示します。

一般ユーザーでログイン認証に成功した場合、「認証に成功しました。」と表示されます。



⑥ 「ログイン名」に "山田花子"、「パスワード」に「山田花子」のパスワードを入 力して [実行] をクリックします。

認証の確認		
ログイン名	山田花子	
パスワード	•••••	
	実行	

⑦ AD 認証の結果を表示します。ログインに失敗した場合、「ログイン名が存在しません。」と表示されます。

認証の確認	
ログイン名	山田花子
パスワード	
実行 ログイン名が存在しません。	

FCL Components SERVIS KVM Solution IP-KVM FX-7101 シリーズ 個別マニュアル「Active Directory 設定マニュアル」

2024年2月発行 05版

FCL コンポーネント株式会社

〒140-8586 東京都品川区東品川 4-12-4 品川シーサイドパークタワー

- 本書の記載内容は予告なしに変更する事があります。
- 本書に記載された情報、図面の仕様に起因する第三者の知的財産権、その他権利侵害については、当社はその責を負いません。
- 本書に記載された製品を使用した貴社製品が、「外国為替及び外国貿易法」ならびに「米国輸出管理規制(EAR)」などの法令に基づき規制されている貨物又は技術に該当する場合に、該当製品を輸出するに際しては同法に基づく許可が必要になります。
- 無断転載を禁じます。
- 落丁、乱丁のあるものはお取り替え致します。